

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 146-8501  
 住 所 東京都大田区下丸子3-30-2  
 氏 名 キヤノン株式会社  
 代表取締役会長兼社長 御手洗 富士夫 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	キヤノン株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市幸区柳町70-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	28	電子部品・デバイス・電子回路製造業
主たる事業 の内容	集積回路の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	30,987	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	ファンティ管理本部 施設管理部 施設エネルギー管理課
		所在地	東京都大田区下丸子3-30-2
		電話番号	03-3758-2111
		FAX番号	03-3758-1160
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度 平成26年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の環境への取り組みについてはホームページにて公表しています。 <a href="http://canon.jp/ecology/">http://canon.jp/ecology/</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

## ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 61,681 t-CO <sub>2</sub> (調) 61,568	(実) 60,596 t-CO <sub>2</sub> (調) 60,483	(実) 57,690 t-CO <sub>2</sub> (調) 57,583	(実) t-CO <sub>2</sub> (調)	(実) 68,309 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 1.8 % (調) 1.8	(実) 6.5 % (調) 6.5	(実) % (調)	(実) -10.7 %

## イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	—	単位	—		
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	100.0	149.9	199.8		141.8
削減率		-49.9 %	-99.8 %	%	-41.8 %

## ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	川崎市内の5事業所全体を対基準年度比で見ると、CO2排出量は省エネ活動により1.8%削減を達成できた。しかし、5事業所のうち排出量比率が66.8%を占める川崎事業所の原単位分母（生産枚数）が43%減少したため、5事業所全体のCO2原単位寄与度は49.9%悪化した。
第2年度	川崎市内の5事業所全体を対基準年度比で見ると、CO2排出量は省エネ活動により6.5%削減を達成できた。しかし、5事業所のうち排出量比率が66.8%を占める川崎事業所の原単位分母（生産枚数）が64%減少したため、5事業所全体のCO2原単位寄与度は99.8%悪化した。
第3年度	

## (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

・キャノン株式会社と国内外生産関係会社を含めた2014年拠点のCO2排出量原単位改善率は、各事業所の省エネ活動により対前年比0.4%削減となった。
---

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産設備のエネルギー管理 (川崎事業所)</li> <li>○変圧器等の適正管理 (川崎事業所)</li> <li>○スチームトラップの保全管理 (矢向事業所)</li> <li>○冷凍機の効率管理 (矢向事業所)</li> <li>○主要設備等の保全管理 (小杉事業所)</li> <li>○照明設備の運用管理 (小杉事業所)</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スチームトラップの保全管理 (矢向事業所) 空調機周りのトラップの交換・整備を実施した。</li> <li>○冷凍機の効率管理 (矢向事業所) 手動運転による効率運転を実施した。</li> <li>○コンプレッサーの運転管理 (矢向事業所) ヒートレスドライヤーの切替方式をタイマーから露点制御へ改造した。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産設備のエネルギー管理 (川崎事業所) 生産状況に応じて、装置の運転台数管理を実施した。</li> <li>○変圧器等の適正管理 (川崎事業所) 分散されている変圧器負荷を統合することで、高効率な運転を実施した。</li> </ul>
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	物流時のCO2削減：トラックから鉄道、船舶へとモーダルシフトを行ない、CO2削減効果を創出。日本において2012年は約2,700トンのCO2削減効果を創出。川崎市内の事業所もその内の一部を寄与している。今後の計画も前年並みの削減を目指す。
第1年度	物流時のCO2削減：モーダルシフトを推進することにより、日本において2013年は約2,500トンのCO2削減効果を創出することができた。川崎市内の事業所もその内の一部を寄与している。今後も新たな施策を含め、物流時のCO2削減に取り組んでいく。
第2年度	物流時のCO2削減：モーダルシフトを推進することにより、日本において2014年は約2,150トンのCO2削減効果を創出することができた。川崎市内の事業所もその内の一部を寄与している。今後も新たな施策を含め、物流時のCO2削減に取り組んでいく。
第3年度	

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の減量化・分別化の推進。</li> <li>・ 待機電力の最小化、超高速スタートアップなど省エネルギー型製品開発の実現。</li> <li>・ インクカートリッジ等のリサイクル実施、O A機器等の部品リユースの実施。</li> <li>・ 原材料・調達品のCO2削減：全体で約2000社のサプライヤーに対してCO2削減活動に関する説明会を実施するとともに、購入部品のエネルギー・材料・物流に関するムダ取り活動を実施。市内事業所も対象として含まれる。</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業所において、廃棄物の減量化・分別化を行っている。</li> <li>・ 消費電力を最小化する製品の開発を行っている。</li> <li>・ インクカートリッジ等のリサイクル、O A機器等の部品リユースを行っている。</li> <li>・ 購入部品のエネルギー・材料・物流に関するムダ取り活動を行っている。</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業所において、廃棄物の減量化・分別化を行っている。</li> <li>・ 消費電力を最小化する製品の開発を行っている。</li> <li>・ インクカートリッジ等のリサイクル、O A機器等の部品リユースを行っている。</li> <li>・ 購入部品のエネルギー・材料・物流に関するムダ取り活動を行っている。</li> </ul>
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	64,827	t-CO <sub>2</sub>
(調)	63,854	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
矢向事業所	川崎市幸区塚越3-451	2700	研究開発	16,399 t-CO <sub>2</sub>
小杉事業所	川崎市中原区今井上町53	2700	研究開発	3,651 t-CO <sub>2</sub>
川崎事業所	川崎市幸区柳町70-1	2814	集積回路製造業	42,767 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
玉川事業所	川崎市高津区下野毛3-16-1	2700	研究開発	1,734 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k1 未満	
300~400k1 未満	
200~300k1 未満	
100~200k1 未満	1
100k1 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--